

科目名称：	一般教養演習	
担当者名：	瀬戸 就一、井戸 健敬、丹羽 篤志	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>新卒採用の筆記試験でSPIを導入している企業が増えています。SPIとはリクルート社が開発した基礎能力テストで、「言語」や「非言語」などの知識が評価されます。</p> <p>言語問題では、どんな仕事をするにも必要とされる基礎的な語彙（ごい）力や、文章読解力などが問われ、非言語問題では、基礎的な計算能力や論理的思考力が問われます。</p> <p>本演習はSPI対策として言語と非言語について学習し、基礎学力を養うことを目的とします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>就職活動における筆記試験合格を目標とします。</p> <p>第1回のテスト結果から学力に応じたクラス編成を行い、クラスに応じて授業内容を適宜変更します。右記の「授業の内容・計画」は中位クラスの内容で、上・下位クラスについては進度を調整します。また、言語分野と非言語分野でクラス編成を変更します。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	○
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)	50	40		10	100
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
言語分野	語句や四字熟語をよく理解しており、SPIの言語問題を速く正確に解答できる。	語句や四字熟語を理解しており、SPIの言語問題を正確に解答できる。	語句や四字熟語をある程度理解しており、SPIの言語問題を解答できる。	語句や四字熟語をほとんど覚えておらず、SPIの非言語問題を解答できない。
非言語分野	SPIの非言語分野の問題をよく理解し、速く正確に解答できる。	SPIの非言語分野の問題を理解し、正確に解答できる。	SPIの非言語分野の問題をある程度理解し、解答できる。	SPIの非言語分野の問題を理解できず、凡ミスや計算ミスが多い。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 確認テスト	言語・非言語分野における基礎的な復習をしておくこと。	60分
第2回 二語の関係・語句の用法・熟語の意味	SPIの言語分野がどのようなものか事前に調べて理解しておく	20分
第3回 文の並び替え	語句の復習	30分
第4回 推論	語句、文の並替の復習	30分
第5回 命題	語句、文の並替、推論の復習	30分
第6回 言語分野小テスト（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの言語分野を復習しておくこと。	60分
第7回 四則演算、分数、小数、単位	SPIの非言語分野がどのようなものか事前に調べて理解しておく	30分
第8回 代金の清算	基本的な計算について復習し、代金の清算について予習すること。	30分
第9回 割合の計算	%の計算について復習し、割合について予習すること。	30分
第10回 料金の割引	割合の考え方について復習し、料金の割引について予習すること。	30分
第11回 非言語分野小テスト1（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの非言語分野を復習しておくこと。	60分
第12回 濃度算	基本的な計算について復習し、濃度算について予習しておくこと。	30分
第13回 速度算	基本的な計算について復習し、速度算について予習しておくこと。	30分
第14回 仕事算	基本的な計算について復習し、仕事算について予習しておくこと。	30分
第15回 非言語分野小テスト2（前半はディスカッションを交えた復習を行う）	SPIの非言語分野を復習しておくこと。	60分
事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、配付プリントを完成させておくことになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 小テスト3回を合わせて40%、授業への貢献・積極的関与10%で評価する。		
課題に対するフィードバック		
小テストを評価し返却する。		
教科書・参考書		
「最新！SPI3【完全版】」高橋書店 事前事後学修及び授業内で参照する。		